

CONTENTS

第39巻 第3号 2012

原 著

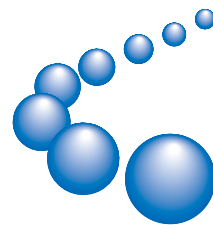
- BAL Fluid Concentrations of Cytokines in Patients with Nonspecific Interstitial Pneumonia, Usual Interstitial Pneumonia, Collagen Vascular Disease Associated with Interstitial Pneumonia, and Sarcoidosis Fumiya Fukushima et al... (161)
- Burden of Cardiovascular Risk Factors on the Frequency of Medical Consultations Among Japanese National Health Insurance Beneficiaries Hiromi Taneichi et al... (173)
- 地域包括医療実習の受講生の特性とその教育効果に関する研究 西山 緑 他... (181)
- 結核性胸膜炎の診断における局所麻酔下胸腔鏡検査の有用性に関する検討 三好祐顕 他... (193)
- Nonspecific Interstitial Pneumonia (NSIP) におけるステロイド治療反応性規定因子の検討 降旗友恵 他... (201)

短 報

- 本学同窓会員の勤務状況—女性医師支援を目指す予備的研究として 西山 緑 他... (209)

特 集—災害医療

- 序文 石光俊彦... (215)
- 災害医療における骨折治療 助川卓也 他... (217)
- 災害の現場 和氣晃司... (225)
- 緊急被ばく医療の現況 高橋克彦... (231)
- 災害医療からみた本院臨床検査の状況 及川信次 他... (241)
- 災害と呼吸器疾患 石井芳樹... (245)
- 循環器疾患 石光俊彦 他... (251)
- 消化器疾患 富永圭一 他... (259)
- 東日本大震災による栃木県内透析施設の被災状況と医療連携, 今後の対策 奥田康輔... (265)
- メンタルケア 萩野谷真人 他... (273)
- 災害と看護ケア
- I. 災害看護の歴史と展望 草刈淳子... (279)
- II. 東日本大震災時における看護師の役割—横断的に活動できた看護教育担当者からみた役割と課題 板倉朋世... (283)
- III. 東日本大震災の被災地における看護実習の体験 村田ひとみ 他... (289)



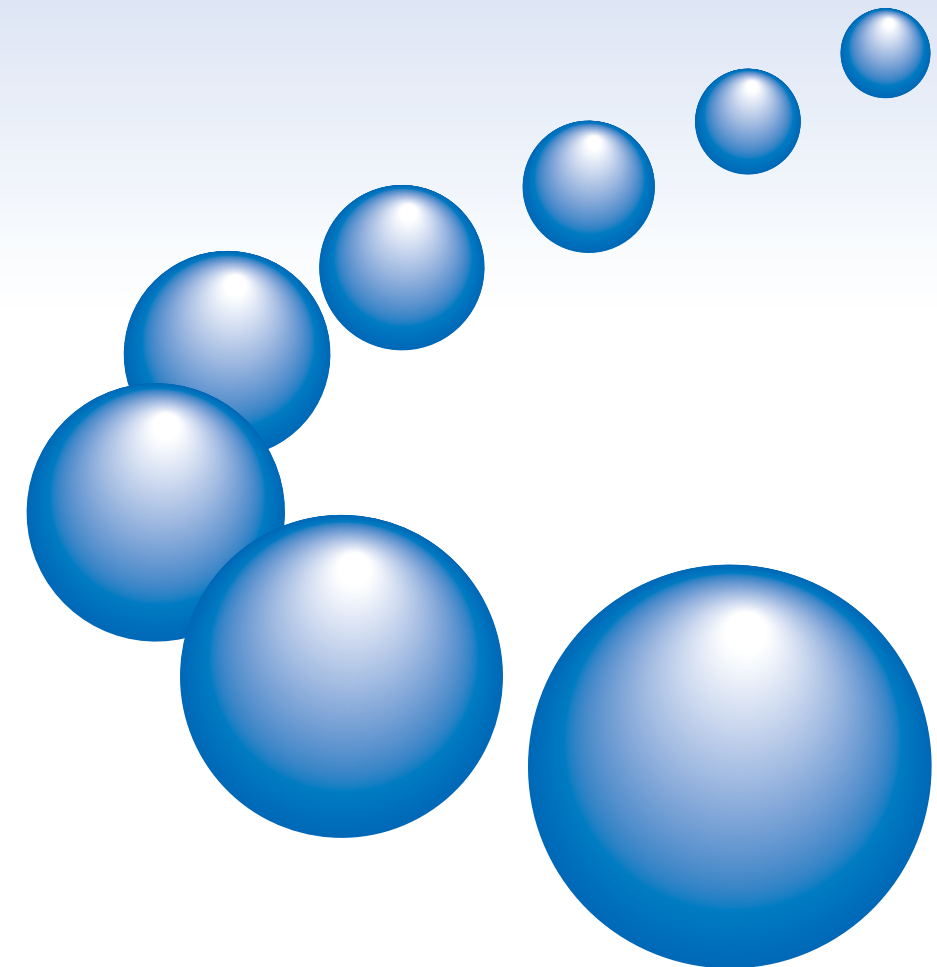
Dokkyo Medical Society
Dokkyo Medical University
Mibu, Tochigi, 321-0293, Japan

DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES

Vol.39, No.3 (161~291) October 2012

DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES

Vol.39, No.3, October 2012



獨協医学会雑誌



- I. 本誌の投稿論文は、和文または英文で、その内容が他誌に投稿中または掲載されていないものに限る。投稿に際して著者は、二重投稿でない旨を記した誓約書にサイン・捺印し、添付する。人体を対象とした研究では、ヘルシンキ宣言について述べられているように、科学のおよび倫理的規範に準じていなければならない。被験者には研究内容についてあらかじめ十分に説明し、自由意志に基づく同意（インフォームドコンセント）取得と記載が必要である。動物を対象とした研究では、動物愛護の立場から適切な実験計画を立て、全実験期間を通じて飼養および保管に配慮した旨の記載が必要である。
- II. 投稿者は獨協医学会会員に限る。
- III. 投稿論文は複数のレフリーによる査読を経た後に、その採否、掲載順序などを編集委員会によって決定する。掲載後の全ての資料の著作権は編集委員会に属し、他誌への無断掲載は認めない。
- IV. 原稿は次の形式とする。
 - (1) 原著 (2) 症例報告 (3) 短報 (4) 総説
 - (5) 通信 (6) 学位申請論文 (7) その他
 - (1) 原著：次の様式とする。
 1. 原稿は、A4版用紙を用い、ワードプロセッサにて白紙1枚に比較的大きなフォントの読み易い文字で和文の場合20字×20行（マージンを大きくとる）、英文ではダブルスペースで印字する。和文中の外国語言語は欧文フォントを使用し、外来語、植物学名、外国人名、および外国地名などの日本語化した語はカタカナ表記（全角）を使用する。和文、英文ともに頻用される語は略号を用いても良いがなるべく少なくする。略号は初出に正式な語を記し、続けて（略号）を記載する。
 2. 原稿は、A4版用紙25枚以内とし、正1部、副2部、計3部を提出する。但し、副については本文、文献、抄録、図表に限りコピーで良いが、写真は原稿と同じものとする。
 3. 原稿の記述は、和文の場合、表題、欄外見出し（簡潔表題）、著者氏名、所属、連絡先住所、電話番号、FAX番号、要旨（500字以内）、索引用語（和文5語以内）、本文（緒言、方法、結果、考察、結論）、文献、英文表題、ローマ字著者名、英文所属、英文要旨（ダブルスペース300語以内）、Key Words（5語以内）、の順とする。英文の原稿も原則として上記に準ずるが、簡潔表題（running title）は40文字以内とし、和文要旨、和文キーワードなどは不要。
 4. 図（写真を含む）と表は別紙とし、図1あるいは表1の様に番号をつける。原稿には図表の挿入箇所を欄外に朱記する。図表の原稿はそのまま印刷出来る様に白紙に黒インクまたは印画紙に焼き付けた鮮明なものにする。またそれらの大きさは、刷り上りで1/4頁を原則とする。写真は裏面に筆頭者氏名、番号、上下を記入する。図表の説明は和文の場合、日本語、英語のどちらも可であるが、英語を選択した場合、表は順にTable 1、Table 2、とし、図（写真）は順にFig 1、Fig 2、と記載する。カラー印刷、またはトレーシングを必要とする場合は実費を徴収する。
 5. 数字は算用数字を用い、計量単位はSI単位を原則とする（例 mg, g, kg, mg/dl, ml, l, mm, cm, m, cm², °C など）。
 6. 文献
 - 1) 文献は本文中に引用番号順に配列し、論文の最後に文献としてまとめる。和文、英文ともに「印刷中」あるいは“in press”は文献として記載するが、私信などは本文中あるいは脚注に記載するにとどめる。
 - 2) 文献は次の形式による。著者名、論文表題、雑誌名、巻、頁（始めと終わりの頁）、発行年（西暦年号）。
 - 3) 雑誌名の略号はIndex Medicusを参考とし、和文雑誌名は略記しない。

- 4) 著者名は、日本人は姓と名、外国人は姓と名（頭文字）とする。
- 5) 単行本の引用には著者または編集者、書名、出版社名とその都市名、引用頁、発行年を記入する。
- 6) 著者名、編者名が4名以上の場合は最初の3名を書き、他は、他、またet alとする。
 - 例1) 酒井昇, 中丸裕爾, 栗原秀雄, 他：甲状腺嚢胞に対するエタノール硬化療法を試み、耳鼻と臨床44：12-15, 1998.
 - 例2) 清水潤, 西山和利, 武田浩一, 他：筋生検所見でtype II atrophy を認めた進行性半側萎縮性の1例（抄）臨床神経学 31：93, 1991.
 - 例3) Sandman K and Reeve JN：Origin of the eukaryotic nucleus. Science 280：501, 1998.
 - 例4) Kerker N, Hadzic N, Davies ET, et al：De-novo autoimmune hepatitis after liver transplantation. Lancet 351：409-413, 1998.
 - 例5) 大澤美貴雄：視覚刺激による事象関連電位（ERP）。臨床誘発電位ハンドブック。黒岩義之、菌生雅弘（編）、中外医学社、東京、pp210-213, 1998.
 - 例6) Tanaka H, Hodumi A, Iwai T, et al：Evaluation of ERPs electrical field distribution in cortical and subcortical dementia. in “Brain Topography Today”. ed by Koga Y, Nagata K, Hirata K. Elsevier Science BV, Amsterdam, pp544-551, 1998.
- (2) 症例報告
 - 1) 書式は原著に準ずる。但し、要旨は300字以内、索引用語は3語以内とする。
 - 2) 原稿の長さはA4版用紙10枚以内とする。
- (3) 短報
 - 1) 独創的な研究、工夫、仮説などを内容とする。
 - 2) 書式は原著に準ずる。但し要旨は不要とし、索引用語は1語とする。
- 3) 原稿の長さはA4版用紙4枚以内とする。
- (4) 総説
 - 原則として編集委員長からの依頼により投稿されるものとし、A4版用紙20枚以内、その他は原著に準ずる。
- (5) 通信
 - 必ずしも学術的な内容に限らず、広く会員の医療活動に関するものとする。
- (6) 学位申請論文
 - 「学位申請論文の執筆投稿指針」を参照する。
- (7) その他
 - 編集委員会が認めたものとする。

V. 備考

1. 投稿にあたっては、人権を損なう恐れのないように配慮するのみならず、実験動物の論文においても、動物の維持・管理や疼痛の緩和などに配慮し、研究計画が研究実施機関の倫理委員会や動物実験委員会等によって承認された研究であることを明記する。
2. 論文掲載が決定した後、最終原稿を収録したフロッピーディスク（3.5インチ、TXT形式で保存、ソフトは指定しないが使用機器名、ソフト名を明記する）を提出する。
3. 著者校正は初校のみとする。校正は誤植、組版の誤りを訂正することにとどめ、内容を変えないこと。
4. 掲載原稿、フロッピーディスクは返却しない。
5. 刷り上り1頁は和文原稿用紙（20字×20行）5枚分を目安とする。
6. 掲載料は、次の基準による。
 - 1) 別刷は30部まで無料とし、それ以上は実費とする。
 - 2) 依頼された総説は無料とする。
 - 3) 特別掲載については別に定める。

CONTENTS

Vol. 39, No. 3, 2012

Originals

- BAL Fluid Concentrations of Cytokines in Patients with Nonspecific Interstitial Pneumonia, Usual Interstitial Pneumonia, Collagen Vascular Disease Associated with Interstitial Pneumonia, and Sarcoidosis Fumiya Fukushima et al... (161)
- Burden of Cardiovascular Risk Factors on the Frequency of Medical Consultations Among Japanese National Health Insurance Beneficiaries Hiromi Taneichi et al... (173)
- Characteristics of Medical Students Who Took the Comprehensive Community Medicine Practice Course and the Effects of Education for Community Medicine Midori Nishiyama et al... (181)
- Clinical Utility of Medical Thoracoscopy in Diagnosis of Tuberculous Pleurisy Masaaki Miyoshi et al... (193)
- Predictive Factors for Response to Steroid Therapy in Patients with Nonspecific Interstitial Pneumonia Tomoe Furihata et al... (201)

Short Communication

- Preliminary Study of Working Conditions and Support of Female Physicians Among Dokkyo Medical University Alumni Midori Nishiyama et al... (209)

Special Edition

- Disaster Medicine Toshihiko Ishimitsu... (215)
- Fracture Treatment in Disaster Medicine Takuya Sukegawa et al... (217)
- Scene of a Disaster Koji Wake... (225)
- The Current Situation of Radiation Emergency Medical Care Network... Katsuhiko Takahashi... (231)
- Experience of Clinical Laboratory of Dokkyo Medical University after the Earthquake 2011 Shinji Oikawa et al... (241)
- Respiratory Diseases in Disasters Yoshiki Ishii... (245)
- Disaster Medicine-Cardiovascular Disease Toshihiko Ishimitsu et al... (251)
- Gastrointestinal, Hepatobiliary, and Pancreatic Diseases in Natural Disaster Keiichi Tominaga et al... (259)
- The Report of Situation and Cooperation of Suffered Dialysis Centers in Tochigi from the East Japan Great Earthquake Kosuke Okuda... (265)
- Psychiatric Support Masato Haginoya et al... (273)
- Disaster and Nursing Care
 - I. Nursing in Disasters Its History and Perspective Junko Kusakari... (279)
 - II. Role and Challenges of Assistant Director in Charge of Nursing Education at the Time of the Great East Japan Earthquake Tomoyo Itakura... (283)
- III. Experience of Nursing Practice in the Stricken Area of the Great East Japan Earthquake Hitomi Murata et al... (289)